

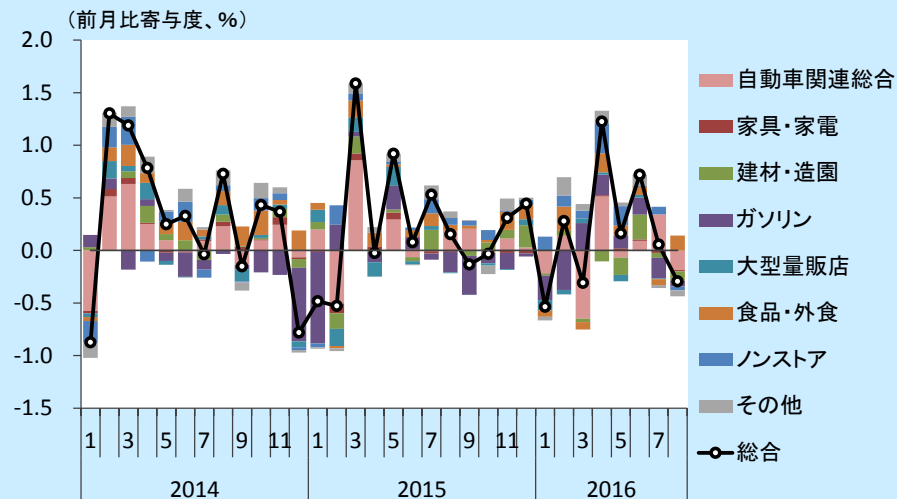
米国：小売売上高（2016年8月）

—8月の小売売上高は5ヶ月ぶりに減少も、拡大基調は維持—

MRI Daily Economic Points

September 16, 2016

図表1 小売売上高 項目別 寄与度



評価ポイント

今回の結果

- 16年8月の米小売売上高(9/15日公表)は、前月比▲0.3%と5ヶ月ぶりに減少。基調を示す自動車、ガソリン、建材を除くコア小売売上高も、同▲0.1%と、10ヶ月ぶりの減少となった。
- 内訳をみると、主要13品目のうち8品目が前月から減少した。建材・造園(同▲1.4%)、スポーツ・趣味用品(同▲1.4%)が2ヶ月連続で減少。自動車関連(同▲0.9%)も、新モデルの発売を控えていることもあって減少した。また、ネットショッピングを中心に高い伸びを続けてきた通信販売(同▲0.3%)が19ヶ月ぶりに減少した。一方、外食(同+0.9%)は増加傾向が続いたほか、新学期を控え、衣料品(前月比+0.7%)が2ヶ月ぶりに増加した。
- ガソリン(同▲0.8%)も、ガソリン価格の低下により、2ヶ月連続で減少。

注)小売売上高は名目値で公表されるため、価格の低下は売上高の減少につながる。

基調判断と今後の流れ

- 小売売上高は、4~6月にかけて高い伸びが続いた反動もあって8月は5ヶ月ぶりに減少したものの、拡大基調は維持している(図表2)。①良好な雇用・所得環境の回復を背景に、実質可処分所得は堅調な伸びを維持しているほか、②消費者マインドも改善傾向にあり、先行きも消費は拡大基調を維持すると見込む。
- ただし、先行きの消費の伸び率は、15年に比べてやや鈍化する可能性が高い。①失業率が5%未満まで改善する中、雇用の拡大ペースは緩やかになるとみられることや、②増加が続いてきた新車販売が、15年後半以降は銀行貸出基準の厳格化に伴い減少に転じていること(図表3)、などが背景にある。
- また、今後のリスクとして、ドル高や企業収益の減少が続く中、企業のマインド低下が雇用環境の悪化につながった場合、消費が押し下げられる可能性には注意が必要である。

図表2 小売売上高トレンド 図表3 新車販売と銀行貸出基準

